

『環境負荷物質削減に関する自主取組み』の進捗状況について

1. 経緯・まとめ

- (1) 1998年公表の「使用済み自動車リサイクルイニシアティブ自主行動計画」(1997年策定)に沿い、バッテリーを除く鉛の使用量を1996年実績である1850g/台から2000年末1/2(925g)以下、2005年末 1/3(617g)以下に段階的削減する事を目標に取組んできた。
- (2) 2002年、自動車リサイクル法の法制化議論に際し、環境負荷物質削減の自主取組みとして、4物質(鉛・水銀・六価クロム・カドミウム)を対象に新目標を設定した。
2015年発売の新型車に対する実績まとめを表1. に示す。

2. 自主取組みの削減目標設定の考え方(2002年制定)

- (1) 世界でトップクラスの厳しい自主目標を設定(EU廃車指令と整合させる)。
- (2) 鉛は従来と同じ、削減量の分かり易い数値目標を設定。
- (3) 水銀、カドミウム、六価クロムは使用量を増やす事なく、時期を明示し使用禁止。
- (4) 対象車両は乗用車のみならず、EU廃車指令では対象外の大型商用車(トラック、バス)も含める。
- (5) 取組みの状況を消費者に公表。

表1. 環境負荷物質削減目標と実績

削減物質	目 標	実 績 【対象: 2015年発売の新型車】
鉛	2006年1月以降1/10 以下 *1 (バッテリーは除く) ・但し、大型商用車は1/4以下	全モデル 目標達成 『2006年1月より、全モデルにて目標達成を継続』 対象モデル数: 【2015年1~12月】 16モデル 【2016年1月~4月】 2モデル ※上記モデル数は乗用車。大型商用車には該当なし。
水銀	2005年1月以降、以下の除外部品を除き使用禁止 交通安全の観点で使用する以下の部品は除外 (1)ナビゲーション等の液晶ディスプレイ (2)コンビネーションメーター (3)ディスチャージランプ (4)室内蛍光灯	全モデル 目標達成 『2003年1月より全モデルにて目標達成を継続』 左記の除外部品を除く —除外部品への対応— (2)は全モデルで水銀フリーを対応済 (4)は乗用車では従来より使用無し (1)、(3)についても水銀フリーを順次対応中
六価クロム	2008年1月以降、使用禁止	全モデル 目標達成
カドミウム	2007年1月以降、使用禁止	全モデル 目標達成 『2006年1月より、全モデルにて目標達成を継続』

注1: 上記削減目標は新型車に適用。

注2: 大型商用車は車両総重量3.5ton超の商用車とする。

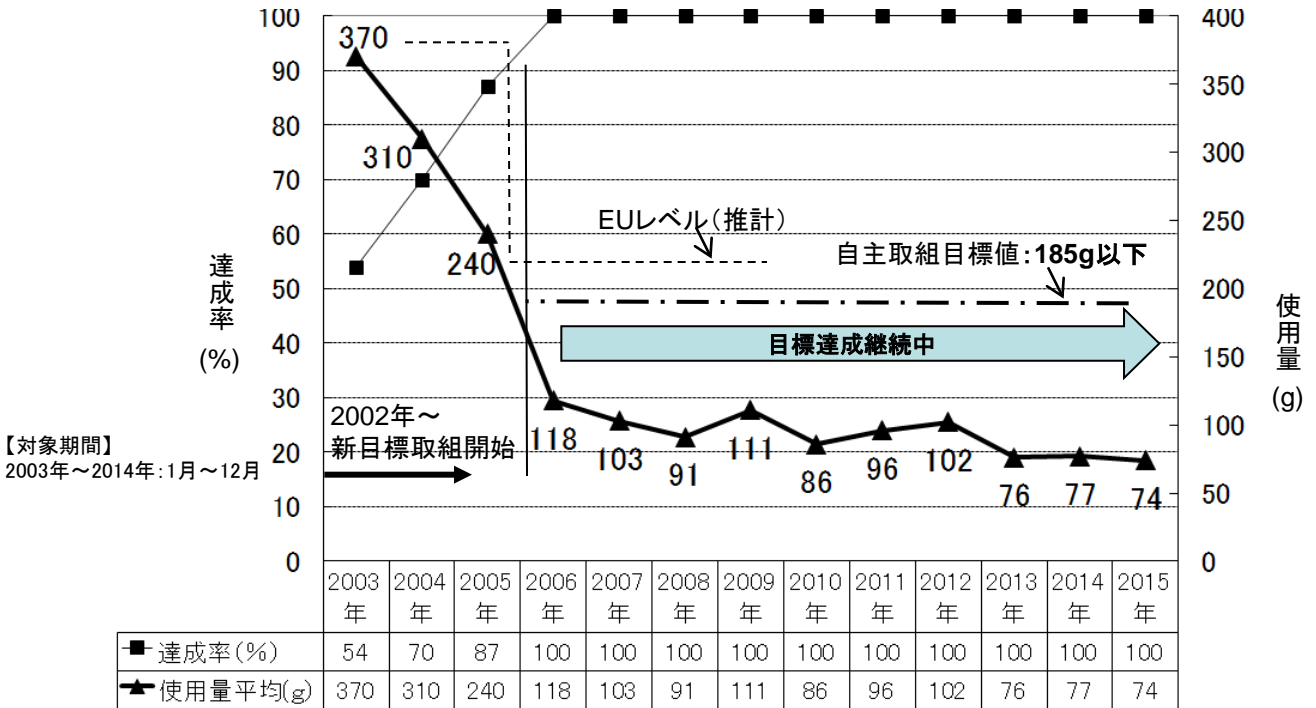
* 1- 削減の基準量: 1850g/台(乗用車)
1996年の1台当たりの平均的な鉛使用量。
従って、2006年1月以降の目標値は185g/台以下

3. 対象4物質について取組み進捗状況のまとめ

(1) 鉛削減への取組み実績と課題

- ①2003年から鉛削減の新目標への取組みを進め、2006年以降は継続して全モデルで目標を達成し、平均100g前後まで削減している。(実績推移は以下 図1の通り)
- ②今後、ハーネスと端子等の接合目的の一般的はんだなどの鉛フリー化を順次進めていくとともに、現状では技術的に対応できない部分(高温はんだの鉛等)についても、欧州での規制強化の動向と整合させながら、削減にむけて関連部品業界と連携し技術開発を進めていく。

図1. 鉛使用量削減状況(乗用車平均)2003年～2015年推移



(2) 水銀・6価クロム・カドミウムの使用禁止

- ①6価クロム、カドミウム、水銀(除外部品除く)の使用禁止を、新型車の全モデルで達成している。
- ②現在、除外扱いしている水銀使用禁止部品については、コンビネーションメーターの水銀フリー化や、ナビゲーション等の液晶ディスプレイのバックライトのLED化、ディスチャージランプの水銀フリー化やLED化、等により、2018年の国内規制等の順守に向け対応を推進している。

4. その他の環境負荷物質規制への対応について

- ・POPs条約等で規制が追加、もしくは追加が検討されている化学物質(HBCD,デカBDE等)についても、会員各社は関連部品業界と連携し、規制への対応を推進している。

5. 今後、『自主取組み達成状況』の公表について

- ・会員各社は、これまで同様新車カタログ、ホームページ、環境報告書、等を通じ、環境負荷物質の削減をはじめ、燃費、排出ガス、リサイクル等、自動車に係わる環境取組みの状況を公表。
- ・また、自工会のホームページとリンクしている「車種別環境情報」にて、車種毎に各物質の使用部品や代替など自主取組みの状況を公開してきており、今後とも判り易い情報の公開に努めていく。

～以上～